

米国で鳥インフルエンザ激化

4 月 20 日に米国アイオワ州オスセオラ郡 (Osceola County) で鳥インフルエンザが確認され、1 農場で **530 万羽**の採卵鶏が殺処分されることとなりました。

この農場はアイオワ州北西部のオスセオラ郡にあります。同郡はアイオワ州が西にネブラスカ州、北西に南ダコタ州、北にミネソタ州に接する位置にあります。アイオワ州は米国最大の鶏卵産地であり、全米生産量の **1/5** を占め、同州の採卵鶏羽数は **59 百万羽**とされており、同州の採卵鶏の **9%** が殺処分されることになります。

[米国のTV全国放送](#)でも大きく取り上げており、「**530 万羽**が殺処分される」「全米の卵の **1/5** がアイオワ産」「人間に対する影響はない」との論調です。

https://www.youtube.com/watch?v=3QN_QpvlQ94

米国の鶏卵相場に対する関係者の見方は「相場にすぐ影響するとは、思いにくいですが、全米飼養羽数 **305 百万羽**の **1%以上**の鶏が殺処分されることは事実である。」「パニックになるな。しばし様子を見よう。もしも **20 百万**とか **30 百万羽**の鶏が殺処分になるならば、相場への影響もあろう。」となっています。

今年の 3 月以来、中西部で何州かでは鳥インフルエンザが発生して、七面鳥や鶏が合計で **780 万羽**殺処分されています。3 月初旬に七面鳥の最大産地であるミネソタで検出された鳥インフルエンザ (H5N2) はその後アーカンソー、アイオワ、ミズーリー、北ダコタ、南ダコタとウィスコンシンの各州の家きん農場で検出されています。20 日はミネソタ州の七面鳥農場とウィスコンシン州の農場での鳥インフルエンザ発生が報告されています。今回のアイオワ州の農場では、殻付卵と液卵を生産していました。

米国中西部も春めいてきている中での流行であり、決して日本の養鶏でも鳥インフルエンザに対する防疫体制は緩めてはならない、という事です。

【日鶏協速報】 発行者：一般社団法人 [日本養鶏協会](#)

〒104-0033 東京都中央区新川二丁目 6 番 1 6 号馬事畜産会館内 (5 階)

TEL : (03) 3297-5515 FAX : (03) 3297-5519

発行日 2015 年 4 月 22 日

編集・発行責任者：島田博 (fuwatama@jpa.or.jp)